

## モザンビーク共和国月報（2020年1月）

### 主な出来事

#### 【内政】

- 新政権（フレリモ党が新国会議長にエスペランサ・ピアス氏を指名）
- 大統領就任式（ニュシ大統領が「全てのモザンビーク国民の大統領となる」と約束）
- 大統領就任式（モマデ・レナモ党首は就任式出席を拒否）
- 中部の襲撃（モマデ・レナモ党首は「レナモ軍事委員会」との交渉を拒否）
- 新政権（ニュシ大統領は新閣僚を発表）

#### 【外交】

- モザンビーク外交（ニュシ大統領が英アフリカ投資サミットに参加）

#### 【経済】

- 英国・アフリカサミット
- Coral Sul 洋上設備完成

#### 【内政】

### 新政権（フレリモ党が新国会議長にエスペランサ・ピアス氏を指名）

与党であるフレリモ党は、エスペランサ・ピアス氏を新国会議長に指名した。現在の議長であるヴェロニカ・マカモ議長は、10年間に亘り同職を全うした。ピアス新議長は、1958年にモザンビーク島で生まれ、2018年から政策・予算委員会の委員長を務めている。1999年～2005年まで鉱物資源副大臣を務め、2005年には鉱物資源大臣に就任し、2015年まで務めた。

（1月13日、AIM電子版）

### 大統領就任式（ニュシ大統領が「全てのモザンビーク国民の大統領となる」と約束）

就任式において、ニュシ大統領は、「政治的考え、民族、人種、宗教等にかかわらず、全てのモザンビーク国民の大統領となる」と約束した。マプト市内の独立広場でスピーチを行った。ニュシ大統領は、自身・フレリモ党に投票してくれた有権者のみならず、他の党に投票した有権者に対しても感謝の意を表した。

実際、ニュシ大統領は74%の得票率で当選し、フレリモ党も250議席中、過半数である184議席を獲得したが、同大統領はフレリモ党に対して議会で議論をおろそかにしないよう警告した。「野党は、何百万人もの声を代弁している。真実は、政治色を帯びていない。真実は、解決策を一緒に見いだすこと、健全な意見の対立によって生じる」と強調した。

ニュシ大統領は、レナモ兵の武装解除・復員・社会復帰は少しずつ進められているが、そのスピードを加速し、和平を定着しなくてはならないと主張した。「和平は最大の優先事項である」と話した上で、中部の「レナモ軍事委員会」及び北部のカーボデルガード州のテロ集団という2つの襲撃に対応していくと話した。

(1月15日付、オ・パイス紙)

### **大統領就任式 (モマデ・レナモ党首は就任式出席を拒否)**

DW アフリカのインタビューで、モマデ党首は、政府と対話を継続していくがニュシ大統領を合法的な大統領とは認めないと話した。同氏は、大統領就任式に招待を受けたが、出席を拒否した。実際は、レナモ党・MDMの全ての議員が出席を拒否した。同氏は、「もし参加したら、国民が困惑するだろう。私はフレリモ党に買収されたと言う人もいる」とその理由を話した。

他方、和平実現を望んでいた故ドウラカマ党首の意思を尊重し、ニュシ政権との対話を継続する姿勢を示した。

(1月16日付、AIM 電子版)

### **中部の襲撃 (モマデ・レナモ党首は「レナモ軍事委員会」との交渉を拒否)**

モマデ・レナモ党首は、「レナモ軍事委員会」の自称リーダーであるニヨンゴ氏との交渉を拒否した。同氏はDW アフリカのインタビューで、「ニヨンゴは目的を持っていない。レナモ党内で何の権力も無い。彼の主張は一貫しておらず、毎日違うことを言っている」と主張した。さらに、「レナモ軍事委員会」がレナモ党の一部であることを否定した。

(1月17日付、AIM 電子版)

### **新政権 (ニュシ大統領は新閣僚を発表)**

ニュシ大統領は、新閣僚・ロザリーオ首相の留任を発表した。モザンビークのシステムでは、首相は政府の長ではなく、閣議のコーディネーター、閣僚と国会の調整が期待されている。さらに大統領不在時に、その役割を代行する。

マレイアーネ経済財務大臣は留任。70歳で、閣僚の中で最年長となる。経済学者であるトネラ氏を鉱物資源・エネルギー大臣に起用。同氏は天然ガス開発における重要な役職を担う。その他、マシャティーネ公共事業・水資源大臣、コレイア農業・農村開発大臣、マカモ外務協力大臣 (前国会議長)、タラパ労働大臣、メスキータ商工大臣、ア

ブドゥライ運輸通信大臣等が就任。

(1月18日付, AIM 電子版)

## 【外交】

### モザンビーク外交 (ニュシ大統領が英アフリカ投資サミットに参加)

アフリカの成長機会と題されたスピーチに加え, ニュシ大統領は, 英国政府を代表して出席したステファンソン外国・英連邦諸国・国際開発担当国務大臣とラウンドテーブルに参加。ラウンドテーブルでは, モザンビークの農業分野やそれに関わるヴァリューチェーンの機会を約束した。さらに, 天然ガス開発にも焦点が当てられた。

(1月20日付, オ・パイプ紙)

## 【経済】

### 主要経済指標

- ・ 名目 GDP：144.5 億米ドル（2018 年世銀）
- ・ GDP（1人あたり）：490.1 米ドル（2018 年世銀）
- ・ GDP 成長率：3.3%（2018 年，IMF 推定）
- ・ 輸出（通関ベース）：51.9 億米ドル（2018 年中銀）  
主な輸出品は，石炭，アルミニウム，電力，天然ガス，重砂，たばこ，貴金属，砂糖。
- ・ 輸入（通関ベース）：61.6 億米ドル（2018 年中銀）  
主な輸入品は，機械類，ディーゼル，ボーキサイト，建築資材，自動車，電力，医薬品。
- ・ インフレ率：3.9%（2018 年通年，国家統計院）

### 経済関連など

#### マクロ経済

- ・ モザンビーク銀行(中銀)の経済動向及びインフレ見通し報告書(CEPI)によると，長期国債償還により，公的債務は 5 億 6,700 万メティカル減の 1,400 億 7,300 万メティカルとなった。(1/1 Noticias 紙)
- ・ 国家統計局(INE)の発表によると，2019 年第 3 四半期のモザンビークの貿易収支は，輸出額が 12 億米ドル，輸入額が 19 億米ドルと赤字になった。また，同期の経済成長率は 2.01%であった。(1/6 O Pais 紙)
- ・ 中銀の発表によると，2019 年前期の外国直接投資は前年同期比で 53%増加し，投資家のモザンビークへの信用回復を示唆するものとなった。(1/7 Noticias 紙)
- ・ INE によると，2019 年 12 月のモザンビークのインフレ率は 3.5%で，2018 年同月の 3.91%よりも落ち着いた。また，2019 年の平均インフレ率は 2.78%で，3 年連続で下落した。なお，2019 年初は約 6%と見通されていた。(1/13 Noticias 紙，1/13 O Pais 紙)
- ・ 国税庁(AT)によると，2019 年の歳入は 2,880 億メティカルで，国家予算法で定められた 2,440 億メティカルを 440 億メティカル上回った。(1/28 Noticias 紙)
- ・ 国連による 2020 年のモザンビークの経済成長見通しは 5.5%。(1/23 O Pais 紙)
- ・ Economist Intelligence Unit によると，モザンビークの経済成長見通しは，2020 年は 4.2%，2021 年と 2022 年は 6.5%，2023 年は 8.1%，2024 年は 9.9%。また，インフレ率も 2020 年は 3.1%，2021 年は 5.5%，2022 年は 5.8%，2023 年は 7.0%，2024 年は 7.8%と増加していくと予測される。(1/25 Noticias 紙)

#### アフリカ・フランスサミット

アフリカ・フランスサミットが本年 6 月，ボルドーにて開催予定で，仏政府はモザンビークの民間セクターのプレゼンスを約束した。当地仏大使館と当地経団連(CTA)はサミットに参加するために企業とプロジェクトを集める MoU を結んだ。ダヴィド・イゾ(David Izzo)当

地仏大使は、モザンビークは天然ガスの他にも農業、エネルギー、運輸、急速な都市化、IT など、サミットで分析されるべき分野があると述べた。(1/17 Notícias 紙)

#### 英国・アフリカサミット

英国・アフリカサミットが1月20日から21日にかけて開催され、英国はモザンビークの女性向け経済エンパワーメントに260万米ドル、個人及び商業向け電力アクセス向上のための民間投資に2,870万米ドル、民間セクターの参画などを通じた農業支援に5,230万米ドルと、総額8,360万米ドルの支援を約束した。英国はさらに、南部アフリカ諸国のビジネス障壁解消及び投資促進に向け、2.61億米ドルを支援する。(1/21 O País 紙, 1/22 Carta de Moçambique 紙)

#### 購買担当者景気指数微増

スタンダードバンクによると、2019年12月の購買担当者景気指数(PMI)は、新規発注の微増と雇用の成長を受け、前月の50.7から50.8に微増し、過去30か月で最高を記録した。(1/8 Notícias 紙)

#### ナカラ港の2019年荷役量が増加

北部開発回廊(CDN)の発表によると、2019年のナカラ港の荷役取扱量は220万トンで、190万トンであった前年比で16%増加した。荷役量の増加は、同社による人と技術、設備への投資の結果である。(1/9 Notícias 紙, 1/9 O País 紙)

#### インド国営企業が天然ガス事業に出資開始

印・Oil and Natural Gas Corp(ONGC)、Bharat Petroleum、Oil Indiaの国営企業3社が、ロブマ・ガス田Area1への20億米ドルの出資を開始した。3社は合わせて同事業の30%の権益を保有している。ONGCは16%の権益を保有し、10億米ドルを投資する。Bharat社は10%、Oil India社は4%の権益を保有する。投資計画は4年間。(1/14 Notícias 紙)

#### Coral Sul 洋上設備が完成

ロブマ・ガス田Coral Sul(Area4)の洋上設備が完成し、進水式を行った。同設備は全長430メートル、全高42メートル、重量14万トンで、2018年9月から韓国釜山市のサムスン重工が建設を進めていた。今後、シンガポール、フランス、イタリア、米国などで製造される12基の天然ガス生産・生成機(6万トン)が据え付けられる。同設備は2021年末にはモザンビークに向かって航行し、海底設備と接続した後、2022年には天然ガス生産を開始する。(1/14 Notícias 紙, 1/14 O País 紙)

#### 炭化水素公社総裁の交替

1月28日、政府は炭化水素公社(ENH)総裁にエステーヴァオン・パレ (Estevão Pale) ・モザンビーク炭化水素社(CMH)CEO を指名した。これに伴い、オマール・ミタ前総裁は退任となる。

ミタ前総裁は民間銀行出身で、2015年8月に第一期ニュシ政権発足と同時に ENH 総裁に指名されたが、気難しい性格や、ロブマ・ガス田参入のための資金15億米ドルの調達失敗などにより、ロザリオ首相からの反対があったとされる。

パレ新総裁は現在60歳で、鉱物業界で30年以上のキャリアを持ち、現在までモザンビークの天然ガス販売ビジネスを行う CMH 社の CEO を務める。在職中の2008年には、CMH社は国内最良企業として KPMG に表彰された。1996年から2005年までは、鉱物資源エネルギー省の鉱山局長を務め、国内の鉱業活動の管理、及び政府が承認した鉱業・地学政策の実行の責任を負った。(1/28 Carta de Moçambique 紙)

#### エミレーツ空港が6月にモザンビーク就航

1月29日、ジョアン・デ・アブレウ国家民間航空局総裁は、エミレーツ航空が6月にマプト便を就航させると発表した。同社はモザンビーク参入に向け、2年間調査をしていた。就航便はドバイ発マプト経由ハボローネ行きとなる見通し。アブレウ総裁によると、エミレーツ航空の他にも、エジプトエアーや仏航空会社もモザンビーク参入に関心を示している。(1/30 O País 紙)

#### **モザンビーク・中国関係**

##### 気象衛星のデータ受信システムを供与

中国の気象衛星風雲(Fengyun)2 から送信されるデータにより、サイクロンをはじめとする気象災害をリアルタイムかつ正確に監視することができるようになる。本データ受信システムは中国気象局の供与により国家気象院(INAM)に設置されたもので、2019年4月に訪中したニュシ大統領の要請に応えるものである。機器は約3万ドルで、モザンビーク人技師が中国に派遣されて保守点検技術を習得した。(1/4 Notícias 紙)

##### 中国企業が養殖業に投資

中国 Xin Long 貿易社を中心とする JV が、ガザ州リンポポ郡の500ヘクタールの土地に養殖用の320の水槽を設置し、エビやカニなどを毎年2,500トンの生産を目指す。同事業では180の直接雇用と1,000の間接雇用を生み、320中64の水槽が設置される同郡ゾンゴエネ行政区では、1,200世帯の家族、特に女性が技術移転の恩恵を受ける。(1/6 Notícias 紙)

##### グロリアホテルの従業員が給料未払いでストライキ

1月5日、マプト市のグロリアホテル(中国 AF ECC 社のグループ)の従業員は、2019年12月分の給料の未払いを理由としてストライキを決行した。ストライキを行ったのはレス

トランの厨房、ウェイター、受付、清掃、クリーニングスタッフなど約 200 名で、約 60 人の宿泊客に影響が出た。同ホテルのスーパーバイザーによると、最近になって経営者が交替したが、それ以前には今回のような問題は起こらなかったとされ、経営者に給料遅配の原因の説明を求めているとした。同ホテル従業員は給料遅配以外にも超過労働、労災支援や産休及び育休の不在、就業規則の不在などを訴えた。(1/6 Noticias 紙)

#### ニアッサ州のセメント工場に出資

中国企業が出資するニアッサ州初のセメント工場が 3 月に操業を開始する見込みである。現在は設備の組み立てと、中国人ベルトコンベア技術者の到着を待っている状態である。原材料の 80%を同州産の石灰石とし、新規雇用を生み出してサンガ郡の住民の生活を向上させるほか、政府の税収増にもつながる。同工場により州内のセメント価格が落ち着くことで、地元のインフラ建設の促進と建設業の好況を生み出すことが期待される。その後、隣接するテテ州、カーボデルガード州、マラウイの市場へセメント供給も視野に入れている。(1/16 Noticias 紙)

#### シヨンゴエネ空港の建設順調

ガザ州シヨンゴエネ群ニャンクチェ地区に建設中の空港について、起工式から 15 か月を迎え、納期の 36 か月を遵守すべく、モザンビーク人及び中国人労働者が日夜努力している。同事業ではメインコントラクターの他、空港ビル建設と滑走路建設のサブコントラクター 2 社、合わせて 3 社の中国企業が関与している。ターミナルビル建設は最終段階で、電気と水道、給油設備と消防施設の工事を行っている。電気と水道の整備後に駐車場が建設される。また、滑走路は建設中である。Liu Zhijus 事業管理者は、事業の進捗状況は 70%であると述べた。(1/27 Noticias 紙)

(了)